第3学年 図画工作科学習指導案

場 所 図工室 児 童 男15名 女13名 計27名 指導者 名 飯 亮 子

1 題材名

「さわってわくわく」 A表現(1)イ,(2)イ 絵

2 題材の指導構想

学習指導要領

「絵や立体、工作に表す活動を通して、 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表し たいことや用途などを考え、形や色、材料 を生かしながら、どのように表すかにつ いて考えること」

子供の経験

本学級の児童は、図画工作の学習に意欲的で、絵を描くことにも、ものをつくることにも進んで取り組んでいる。 友達との関わりも活発で、 互いの発想やアイディアを利用したり、 表し方を教え合ったりする姿が見られる。

子供の資質・能力

全体的に製作意欲は高いが、表したいもののイメージが広がらず、友達と同じような作品に偏ってしまう傾向がある。また、自分なりのイメージをもっていても、それを絵や立体で表す方法が分からず、思いを表現しきれないことがある。

学習の系統性(学習前)

2年 図画工作科

「えのぐをたらしたかたちから」A表現(1)イ(2)イ 絵画用紙に絵の具をたらして偶然にできた形からイメージを広げ、さらに色を重ねたり、描き足したりしながら、自分なりのお話を描く学習を行った。

題材について

本題材では、硬さや質感の違う材料の触り心地のよさ や違いを楽しみ、それらがもつ特徴から感じたことをも とにイメージを広げて、自分の表したいものを描いてい く。材料の形を変えたり、組み合わせたり、並べたりと、 試行錯誤を繰り返すことで、材料から発想を広げること ができる題材である。

この特性を踏まえ、本題材では、材料を触ったときの感触や、見た時のイメージを伝え合う活動を行う。「ふわふわ」「ざらざら」といった触り心地を比較したり、「~のようだ」「~な感じ」といった見た目のイメージを関連付けて考えたりすることで、一つの材料を多面的にみて発想する力が養われると考える。また、新たな発想や技法を互いに交流し、そのよさや楽しさを共有する活動を行う。そのような活動を行うことで、「もっとやってみたい」という思いをもつことができると思われる。

学習の系統性 (学習後)

4年 図画工作科 「木々を見つめて」

A表現(1)イ(2)イ 絵 木々の形や色,触り心地など の特徴を感じて気に入った木 を見付け,絵の具やクレヨンな どで形や色を工夫しながら,絵 に表す学習を行う。

3 指導にあたって

そこで、みたり、つくったりすることに喜びを感じる子供を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮

[国語]

詩「どきん」の擬声語や擬態語とイメージを関連付けることで、言葉の調子や面白さを生かした自分なりの表現をする。 (擬声語や擬態語をどのように読みたいか問う)

[理科]

ゴムの力の働きと動くおもちゃのイメージを関連付けることで、輪ゴムを伸ばす長さに着目した発想をもつ。(ゴムの力の働きを生かして、どんなおもちゃがつくれそうか問う)

<深い学びの姿>

様々な材料を触ったり,みたり することを楽しみ,形の変え方や 組み合わせ方を試行錯誤しなが ら,自分のイメージした絵を描く ことに喜びを感じる姿

[図画工作科]

材料の特徴とイメージを関連 付けることで、触り心地や見た目 の面白さを生かした、自分なりの 発想をもつ。(その材料を使うと、 どんなものができそうか問う)

[音楽科]

楽器を組み合わせて生み出される音の響きを、イメージと関連付けることで、組み合わせた響きのよさを生かした表現ができるようにする。(その楽器を組み合わせると、どんな響きをつくれそうかを問う)

[総合]

緑が丘の名人の技と自分の思いを関連付けることで、名人の技のすごさを生かした自分なりの発想をもつ。(名人の技をもとにして、これからどんなことをしていきたいか問う)

視点2 深い学びを実現し、資質・能力を育む題材構成

子供が造形的な視点にもとづきながら友達と対話する活動を通して、みたり、つくったりすることに喜びを感じることができるようにするために、次のような手立てを講じる。

- ・ 学習の導入で、「はてなボックス」を提示し、作品を見ずに手触りだけで作品を感じる時間を設ける。「どんな感じがするかな」と問うことで、手触りを意識して材料と向き合うことができるようにする。また、様々な触り心地の表現に触れることで、「触ってみたい」という意欲をもつことができるようにする。
- ・ 題材を貫く視点(触り方,触り心地,材料の組み合わせ方,色の感じ)を明らかにし、働かせる段階を題 材構成に位置付けることで、子供がこれまでに使った見方・考え方を関連付けたり、比較したりしながら、 作品づくりに効果的に生かすことができるようにする。
- ・ 制作活動を中断させることなく、様々な表現のよさに触れながら自分の作品に生かすことができるように、 教師が自然な形で活動の中に鑑賞の場面をつくる。

視点3 単位時間の目標を達成するための考えるための授業

単位時間の目標を達成するために、次の手立てを講じる。

- ・ 発想の幅を広げ、「もっとこうしたい」という思いをもつことができるように、子供の活動や発言の中から、 材料の形の変え方、並べ方、組合せ方に工夫が見られる作品を教師が取り上げ、全体でそのよさについて話 し合う場を適宜設ける。
- ・ 材料とイメージのつながりを明らかにし、そのよさや面白さを実感できるように、鑑賞の際に、「なぜ、その材料を選んだのか」「なぜ、そう感じたのか」など、考えの理由を問う。
- ・ 子供自身がその時間の自分の学びを自覚することができるように、授業の最後に振り返りの場を設定し、活動の達成度や身に付いた力、次にやってみたいことなどを、記録するように促す。また、その記録をもとに教師が子供の気付きやつまずきを見取り、価値付けしたりアドバイスしたりする。

4 題材の指導計画

(1)目標

材料を触ったり、見たりすることを通して、形や色の感じを捉えることができる。

【知識及び技能】

- ・ 材料の触り心地からイメージを広げ、描きたいものを思いつき、どのように描くか考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 材料を触ったり、形を変えたり、組み合わせたりすることを楽しもうとする。

【学びに向かう力, 人間性等】

(2) 評価規準

(<i>4)</i> 計1地次2年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 材料を触ったり、見たりする	① 材料を触った感触や形,色から	① 進んで材料に触れたり、組み
ことを通して、「~みたい」「~	自分のイメージをもち,友達の作	合わせたりして表現することを
な感じ」といった自分なりの見	品と比較・関連付けながら見いだ	楽しみ,自ら想像してつくり出
方や感じ方をしている。	したよさや工夫を作品に取り入	す喜びを味わっている。
	れている。	
	② 自分たちの作品の造形的なよ	
	さや面白さ、表したいこと、いろ	
	いろな表し方などについて,感じ	
	取ったり考えたりしたことを,理	
	由を明らかにして伝えている。	

(3) 指導計画(4時間)

	指導計画(4時間) 		de har har a chall.	37 /m 103/4 /37/m [3/13
段階	主な学習活動	指導の手立て	考えるための技法	評価規準(評価方法)
問題の把握第一次	 ○ 材料の触り心地を確かめ、イメージを膨らませる。〔第1時(本時〕〕 (1)はてなボックス・どんな触り心地かな。・何が入っているのかな。 (2)作品の例示・綿と毛糸は羊の絵になっていたんだね。・おはじきは、つるつるして透明だから氷にしたんだね。 (3)材料を組み合わせて置いてみる・綿と発泡スチロールを組み合わせたら、かき氷みたいになったよ。シロップになるような材料がほしいな。・茶色の毛糸を集めたらゴリラみたいだよ。ほかの動物も作ってみたいな。 	 材料の手触りからイメージを広げることができるように、箱の中に作品を隠し、触るとどんな感じがするか、言葉で表現するよう促す。 材料の特性を作品づくりに生かしていくことができるように、働かせる見方・考え方として、「触り方」「触り心地」を提示する。 材料をどんなものに変身させるかイメージを膨らませることができるように、材料を組み合わせる試し遊びを取り入れる。 「もっとこうしたい」という子供の思いを引き出すために、導入で提示する材料は最低限のものにし、家庭での材料集めを促す。 	比較する 関連付ける ・この材料の感 じは、〜みたい。 ・こう組み合わ せると〜な感 じ。	【態①一活動、観察】 (題材を通して評価する) ・ 進んで材料に触れたり、 組み合わせたりして表現することを楽しみ、自ら 想像してつくり出す喜びを味わっている。 【知①一活動、観察】 材料を触ったり、見たりすることを通して、「〜みたい」「〜な感じ」といった自分なりの見方や感じ方をしている。
	題材の課題: さわって楽しい!でこ	にぼこな絵をかこう		
問題の追究第二次	 ○ 家から持ってきた材料を交流し、画用紙に並べてイメージを広げる。[第2時] (1)持ってきた材料を見せ合って、何ができそうか見立て遊びをする ・ フワフワのタオルはアルパカみたいだね。 ・ 綿と○○と○○を組み合わせると、おいしいものができそうだよ。 (2)画用紙に材料を組み合わせて置いてみる(セロテープ・両面テープで仮止め) ・ ○○さんはアルミホイルを丸めているから隕石みたいだね。私はアルミホイルを広げて光る地面にするよ。 ・ スポンジの触り心地が気持ちいいね。綿と組み合わせると、雲の上のベットができそう。 (3)途中段階の作品を交流する(画像) ・ おはじきを使って氷のお城をつくりました。おはじきがつるつるして氷みたいに見えたからです。 ・ ラップを丸めると氷みたいに見えるから、氷のお城にぴったりだと思います。 	 手触りからイメージを広げるため、触るとどんな感じがするか、言葉で表現するよう促す。 イメージの幅を広げるために、工夫が見られる子供の作品を活動中に教師が紹介し、そのよさを全体で共有する。 材料の使い方を工夫することができるように、働かせる見方・考え方として、「触り方」「材料の組合せ方」を掲示する。 動かすことができない制作途中の作品を全体でみることができるように、教師が作品を画像記録し、テレビに写して鑑賞する。 工夫が見られる作品の価値を実感することができるように、よさや面白さを伝え合う際は、理由を付けて話すよう促す。 	比較する 関連付ける ・この材料の感じは、〜みたい。 ・この材料を、こんな風に使ったら、〜ができた。	【思②一活動、観察記録】 ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしたことを、理由を明らかにして伝えている。
	 さらに材料を吟味し、自分が表したいものを完成させる。[第3時] (1) 題名を考えながら完成を目指す・ふわふわの綿でつくったくじらが主役だから、「ふわふわくじら」にしよう。・ ビー玉が光ってきれいだから、「ぴかぴか宝箱」にしよう。おはじきをつけるともっといいかな。 	 材料の触り心地や見た目とイメージと結び付けるために、「○○な~」というタイトルを考えるように促す。 次時の鑑賞の際、触っても壊れないように、材料はしっかり画用紙に貼り付けるよう促す。 		【思①一活動、観察】 ・ 材料を触った感触や形、 色から自分のイメージを もち、友達の作品と比較・ 関連付けしながら見い だしたよさや工夫を作 品に取り入れている。
まとめ 第二次	 自分や友達の作品の手触りを楽しみながらよさを話し合う。〔第4時〕 ・○○さんの作品がいいと思います。ふわふわなものを集めて、あったかそうな作品ができたと思います。 ・○○さんは、わたしと同じ材料を使っているけれど、絵の雰囲気が違います。 	・ 作品の面白さやよさを実感することができるように、価値に迫る発言を教師が全体で取り上げる。・ 今後の表現活動に活用していくことができるように、働かせた見方・考え方(触り心地・形の変え方・色の感じ・組材料の組合せ)を価値付ける(掲示を活用)。	比較する 関連付ける ・この材料を、こ んな風に使った ら、○○な世界 (作品)ができ た。	【思②一発言、振り返り】 ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしたことを、理由を明らかにして伝えている。

5 本時の指導計画

(1)目標(活用する「考えるための技法」・関連付ける)

材料を触った感じをもとに、描きたいもののイメージをもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 評価規進

おおむね満足	努力を要する児童への支援		
材料を触った感じや形、色の組み合わせから、それ	友達のやり方を参考にして材料の組み合わせを試		
が何になりそうかを考え、自分なりのイメージをも	し、教師や友達にヒントをもらいながら、何ができそ		
ち,友達に伝えている。	うかを考える。		
[思考・判断・表現]			

(3)展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援(◇評価)	資料 等
導入 (15 分)	 はてなボックスの中の作品を触り、手触りについて交流する。 フワフワしているね。これはタオルかな。綿かな。 丸くてつるつるしているよ。おはじきかな。 はてなボックスを開いて、作品を鑑賞する。 タオルや綿が羊の絵になっているよ。 羊の毛はもこもこしているから綿を使ったのかな。 本時の課題を把握する。 材料をさわったり、見たりした感 	手立て① 材料の手触りに注目することができるように、はてなボックスの中に作品を隠し、手触りを言葉で表現するように促す。活動の中で活用していくことができるように、子供が気付いた見方・考え方(「触り方」「触り心地」)を教師が価値付け、板書していく。 ・ 材料の特徴やよさ、面白さに気付くことができるように、その材料を使った理由を考えるよう促す。	・見方・考え方(掲 示)
展開(20分)	4 教師が用意した材料を使って、いろいろなものを描いてみる。 ・ スポンジはホットケーキみたいになったよ。 ・ オレンジの毛糸と黄色のタオルを組み合わせたら、オムライスみたいになった。 5 材料から何を思いついたか伝え合う。 ・ 綿とスポンジを並べたら、雲の国みたいになりました。 ・ フェルトと毛糸で、毛並みのいいライオンができました。 6 家にありそうな、手触りの面白い材料について話し合う。 ・ プチプチが○○になりそう。 ・ 使わなくなったタオルがあると、動物になりそう。	・ 子供が「もっとこんな材料が欲しい」という思いをもつことができるように、教師が用意する材料は少なめにする。 ・ 子供が発想を広げることができるように、子供の活動や発言の中から、材料の形の変え方、並べ方、組合せ方にりりが見られる作品を教師が随時取り合う場を設ける。 ・ 自分のアイディアを次の作品づらり場を設ける。 ・ 自分のアイディとができるように、場を設ける。・ 自分のアイディとができるように、 おいたものをタブレットで撮影してよいことを伝える。 ・ 新しい発想や、面白いイメージを知ることを伝えるように、教師は作品画像を記録し、全体の場で提示する。 「手立て②」 材料の触り心地とイメージを関連付けて考えることができるようにのができるようにのができるようにのができたが話すように促す。	・画用紙 ・スポンジ ・梱包材 ・アルミホイル ・毛糸 ・片面段ボール ・タブレット
まとめ (10分)	 6 本時の学習を振り返る ・振り返りの視点に沿って振り返りを発表する。(指名) ・プチプチを使ってお風呂をつくりました。プチプチしたところが泡みたいに見えました。 ・○○さんの綿でつくったソフトクリームは、ふわふわしていて本物みたいでした。 	 ・ 活動の達成度を自覚することができるように、振り返りの視点を示す。 (1) どんな材料を使って、何を描いたか。 (2) 面白いと思った友達のアイディアは何か。 (3) どんな材料が欲しいか。 ◇ 材料を触った感じや形、色の組み合わせから、それが何になりそうかを考え、自分なりのイメージをもち、友達に伝えている。【思発言、活動、記録】 	・振り返りカード

- 5 -
